

ペンリレー 宣伝懐かしのインドネシアの職場を訪ねて
甲府21ワイズメンズクラブ 清藤 城宏

かって JICA の専門家としてインドネシアで働いたが、私のカウンターパート(技術移転する相手)とも連絡がとれ、「大歓迎で迎えるので是非きてください。」との返事をいただき、一緒に働いた大先輩夫婦とともに、今インドネシアのジョクジャカルタ市に滞在しております。働いた職場は、日本政府が無償で建てた「バイオテクノロジー-林木育種開発センター」。建設時の平成3年には前天皇ご夫妻がご視察された場所でもあり、ロイヤルプロジェクトと呼ばれておりました。その最初の専門家に私を含め5人の日本人が派遣されました。私はまだ40代、インドネシア側は大学卒の若い研究員がほとんどでそれは活気があり、打てば響く連中で楽しい充実した日々でした。私のカウンターパートは文科省の奨学金試験にもパスし、一人は九大に、もう一人を東大の大学院に入り博士号も取得した優秀な研究員でした。最初の出会いは28年経った今、皆さん50代となって歳を感じさせたもののお話せば昔のまま、懐かしく思い出話や最近の研究の様子、家族の様子などの話題で盛り上がりました。今回私は写真のポスターのように宣伝され、講義をさせていただきました。「東日本大震災と海岸林再生」をテーマに、津波被害、それに皆さんが興味を抱く材料の選抜による生育の違いなどを強調しながらプレゼンし、和やかな研究交流も行えました。我々の派遣がインドネシアの人づくりに微力ながら貢献したことを肌で感じ満足感を味わわせてもらったと同時に、これで皆さんとお会いするのも最後かと思うと一抹の寂しさも感じつつ皆さんとわかれました。(ホテルにて)



項目	ニコニコボックス	バザー収益金	クリスマスオークション	切手
目標値	250,000	50,000	50,000円	5,000g
8月の合計	21,605			
8月末迄累計	61,441			0g
達成率	24.5%	%	%	0%

山梨YMCA便り 秋空に槌音響く！新会館建築開始。

山梨YMCA 総主事 露木 淳司

新会館建設がいよいよ始まりました。夏休みプログラムがほぼ終了となった8月23日には甲府市中央三丁目の建設予定地において、樋口雄一甲府市長を始め、60人もの参加者にご参列いただき、山梨YMCAの常議員でもある岡信男牧師の司式で起工式が行われました。雨の中の式典となりましたが、「雨降って地固まる」との一言に勇気づけられました。完成は来年の春ということですが、あと半年で終わりとなる現会館での活動を名残り惜しみながら、その日が来るまで一日一日大切に過ごしていきたいと思っております。特に11月には第59回目となるYMCAチャリティーバザーがあります。ワイズの皆様やボーイスカウトの皆様が、YMCAの様々なプログラム会員と一体になって、まさにYMCA FOR ALLを象徴するイベントです。体育館や3階のペランダから見る景色はこれが見納めです。後世に語り継がれるような盛大なバザーにしたいものです。特にこれからの一か月は献品のご協力をお願い申し上げます。尚、今年の開催は11月3日が日曜日にあたるため、クリスチャンの会員に配慮し、11月2日の開催となります。お間違いのなきようご参集願います。さて、建設募金ですが、現在予約も含めて2,500万円を超えたところですが、7,500万円を目標としていますので、ようやく3分の1を超えたところですが、まだ、ご協力いただけていない方、すでにご協力いただいている方も併せて、再度のご協力を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。



会員在籍者数 34名 (2019年8月末日現在)

8月の出席率

例会出席数	28名
その他出席者数	4名
合計	32名
32÷34	94%



THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A.
THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

2019年(令和元年)9月21日(土) 発行

山梨県甲府市中央5丁目4-11
山梨YMCA青少年センター
〒400-0032 TEL 055-235-8543
FAX 055-235-8553

ブリティッシュ委員長 後藤哲夫

国際会長主題: Building today for a better tomorrow
アジア太平洋地域会長主題: アクション! Action!
東日本区理事主題: 勇気ある変革、愛ある行動
あずさ部長主題: あなたの入会時のときめきと多くの経験をワイズのために!
甲府21クラブ会長主題: 『対話と実行』

Jennifer Jones(豪州)
田中 博之(東京多摩みなみ)
山田 敏明(十勝クラブ)
赤羽 美栄子(松本クラブ)
荻野 清


甲府21ワイズメンズクラブ
2019年9月会報
強調月間 コース

今月の聖句

「あなたの神、主が与えられる土地で、どこかの町に貧しい同胞が一人でもいるならば、その貧しい同胞に対して心をかたくなにせず、手を閉ざすことなく、彼に手を大きく開いて、必要とするものを十分に貸し与えなさい。」
申命記 15章7～8節
小澤 智之 選

会長挨拶

甲府21ワイズメンズクラブ会長 荻野 清



コスモスの花が咲き始める季節となりました。この花で思い出すことがあります。小生の子供たちが小学生の頃、PTA活動の中で記念講演という話が持ち上がり、詩人・金子みすゞ研究の第一人者である矢崎節夫氏に講演をお願いしたことがありました。矢崎氏は、「金子みすゞ記念館：山口県長門市」の初代館長に就任し、現在も館長として、精力的に『みんなちがって、みんないい』などと題して講演活動を行い、自信が学生時代に衝撃を受けたものを、『みすゞコスモス』という呼び方で、金子みすゞの感性の魅力を、多くの人々に伝えていきます。その一端をご紹介します。享年26歳という若さで世界した「みすゞさんの世界観」は、自分中心あるいは人間中心という眼差しではなく、「あなたと私」というもので、私が私であるためには、あなたという存在がいてくれないと成り立たないというものです。われわれは、生まれてからずっと両親、祖父母あるいは地域の人たちがいてくれるからなのです。よって、「私とあなた」ではなく「あなたと私」なのです。「親と子」は、子が生まれてくれて親にしてくれたのですから「子と親」だったのです。「先生と生徒」、「上司と部下」も同様です。自分中心だと、自分が相手より上がってしまうから、上から下へ「何故わからない」、「どうして出来ない」とか「君のことがわからない」といいがちになってしまうのです。これでは相手を理解することは出来ません。自分を相手の位置まで下さない限り相手を理解できません。英語で理解をアングラ・スタンド、下に立つと書くのもわかります。金子みすゞ作 二編

～9月例会プログラム～


日時 2019年9月21日(土) 12:00～
会場 勝沼ぶどうの丘 (ホテル1F会議室、BBQテラス)

▲ 第一部 例会	司会	飯田 剛メン
	奏楽	荻野優子メネツ
① 開会点鐘		荻野 清会長
② ワイズソング、ワイズの信条		
③ 今月の聖句、一言		小澤智之メン
④ 会長挨拶		荻野 清会長
⑤ ゲスト、ビジター紹介		荻野 清会長
⑥ 入会式	司会	米長晴信 EMC 委員長
⑦ 諸報告		

(写真撮影、会場移動)

▲ 第二部 懇親会	司会	飯田 剛メン
① 開会挨拶		荻野 清会長
② 来賓挨拶	次期東日本区理事	板村 哲也様
③ 食前感謝		古屋 秀樹メン
④ 乾杯		赤羽あずさ部長
⑤ 会食 懇親		
		ハッピーバースデー、近況報告
⑥ YMCAの歌		
⑦ 閉会点鐘		荻野 清会長

新入会員 はじめまして!



佐藤利之(さとうとしゆき)さん はじめまして。この度はワイズメンズクラブに入会させていただきましたありがとうございます。私は南アルプス市出身の現在37歳、今年結婚いたしました。職業は父が経営しているサトウオートショップという車会社で、営業として日々奮闘しております。今まで公共性の活動をしたことがなく、自分中心の考え方でしたが、社会全体から自分を見られるようになりたく、野々垣様、荻野様にお声がけいただき入会させていただきました。これからよろしくお願いいたします。

(大漁)

朝焼け 小焼けだ 大漁だ。
大羽鰯の 大漁だ。
浪は 祭りのやうだけど
海の中では 何万の
鰯のとむらひ するだらう。

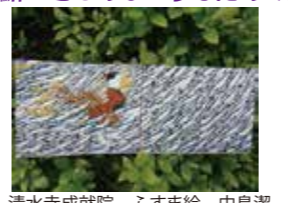
(みんなちがって みんないい)

わたしが両手をひろげても、
お空はちつともとべないが、
とべる小鳥は私のように、
地面をはやく走れない。

わたしが体をゆずつても、
きれいな音はてないけど、
あの鳴る鈴は私のように。

たくさん歌は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんな違って みんないい。



清水寺成就院 ふすま絵 中島潔

HAPPY BIRTHDAY IN SEPTEMBER

メン		メネット
後藤哲夫さん	9/1	駒田元子さん 9/11
松村禎夫さん	9/3	功刀佳津子さん 9/22
古屋秀樹さん	9/11	
清藤城宏さん	9/14	
小澤智之さん	9/28	

敬称略

2019年8月例会報告

寺田 喜長

日時 2019年8月6日(火) 19時~
会場 山梨YMCA 青少年センター
例年8月は納涼例会としてぶどう棚下での例会を開催して...
荻野会長の開会点鐘、荻野メネットのピアノ伴奏にてワイズソング斉唱、視力の低下にて皆さんに迷惑をおかしていると思われる中で、今月の聖句コリント第二12章9節を選ばれました小野興子メンの心に染み入る一言、荻野会長の挨拶とゲストの紹介、今日入会された佐藤利之さんの入会式は9月の納涼例会にて執り行うとの報告が有りました。誕生月祝は、本日が誕生日の駒田メン、奥水メンの2名と小野メン、相川メネットの4名を祝福、駒田メンは毎年ぶどう棚下での誕生祝でしたが今年は今季限りのこのYMCA会館でのお祝いに感無量とコメントでした。食事時間もそこに鐘ヶ江講師の卓話を拝聴、辺野古基地についての幅広い見地のお話を頂き基地問題を再考する機会を頂きました。もう少しお話をお聞きする時間と質問の機会を持てればと思いましたが、諸報告は納涼例会の案内と30周年記念に向けての佐藤実行委員長準備開始要請、会長より東日本区大会ホストへの準備協力要請がなされ、定刻に閉会点鐘にて終了しました。
28名の会員(入会者1名)、5名のメネット、2名のゲスト(鐘ヶ江氏、宮岡氏)計35名出席

8月卓話

「辺野古新基地建設の特質と現状について」の概要

鐘ヶ江 晴彦
菅官房長官は口を開けば「基地移設問題の原点は、普天間の危険性の除去である」と言うが、配布した略年表にあるように発端は1995年の少女暴行事件でありそれを受けて開催された大県民大会である。日米両政府は、そこに示された県民の反米軍基地感情に対処するため沖縄に関する特別行動委員会を組織し、普天間基地を目玉とする10施設の返還を決めたが、いずれも県内に代替施設を造ることが条件とされた。

現在の施設案はスライドで示した様なものだが、注目して頂きたいのは、普天間にはない、強襲揚陸艦が接岸できる岸壁が造られ辺野古弾薬庫の弾薬を利用できる総合的な機能を持った基地になることである。そこで沖縄では、この施設を辺野古新基地と呼ぶ。しかも、この施設が完成して部隊が移動してきても普天間基地は返還されないことは、一昨年6月の稲田防衛大臣の国会答弁で明らかになっている。

新基地建設の現状として、埋め立て開始半年目の空撮写真を示したが、それを見ると埋め立てがどんどん進んでいるような印象を抱くが、実際には数%にすぎない。埋め立ての大部分をなす大浦湾側では、広範な軟弱地盤の存在によって全く工事は進行していない。この海底地盤を改良するためには7万7千本の砂杭を打つ必要があるとされるが、一番深い所では海面下90mまであり、日本には60~70mまでできる作業船しかないため、新基地が完成することはありえないであろう。



<<Change!2022 ニュース講読のお願い>>
「Change!2022」は、ワイズ創立100周年となる2022年をゴールとする東日本区の会員増強運動です。目標とする人数は、1997年に東日本区が発足した時の会員数1246名です。この目標を達成するために、会員増強に関連するニュースを発信しようと、東日本区では「Change!2022 ニュース」を毎月15日に発行致します。是非お読みいただき会員増強活動のヒントにしていただければ幸いです。この「ニュース」を読むことによりお互いに刺激をもらい、与えあうために会員の皆様からも、会員増強に関連する記事の寄稿・投稿をお願いします。
・新クラブを立ち上げている
・こんな会員の誘い方がある
・新入会員の感想
・新しい会員増強のヒント
など、どのようなテーマでも随時受け付けますので、記事をお寄せください。
記事の送り先は、編集長の下記のアドレスへお願いいたします。
itami@tailor-itami.com
なお、ワイズドットコム、会員全員メール(ロースターに登録のある方)で配信しております。また、東日本区ホームページにも掲載されます。



祝 興水さん 祝 駒田さん



新入会員 はじめまして!

宮岡宏実(みやおかひろみ)さん
令和?年7月4日生
この度は素晴らしい会に参加させていただく機会を得て大変うれしく思います。私は25歳の娘と15歳の息子を持つシングルマザーです。19歳からフラワーデザインの道に入り、結婚式の会場装花やブーケ、フラワーデザイン教室の講師などをしておりました。もっと山梨を元気にしたいと考え、2012年に山梨県ご当地アイドル「FUJISAKURA塾」プロデュースして今年で8年目に入ります。私は子どもたちが大好きで、みんなで山梨の素晴らしさを発信して山梨を元気にしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

育精福祉センター納涼祭

2019年8月3日(土)
稲垣 浩司

荻野清会長、野々垣悦子さん、寺田喜長さん、小澤公紀さん、奥水順雄さん、稲垣の6人は毎年恒例の「育精福祉センター納涼祭」に行ってきました。私たちはいつものようにドリンクコーナー担当です。今年は同日に催し物が重なったようで、仕入れ先ではオレンジジュースが品切れだったそうです。センターのドリンク仕入れ部隊も予想していなかった事態発生でした。私たちも驚きました。えっ、なんと開店前から当コーナー一番人気のオレンジジュースがない。しかも、「カルピスあるよ」「カルピスあるよ」とのかけ声に惑わされ、導かれるようにカルピスが人気を独り占めに、てんてこ舞いのあつという間の品切れ。それからはお弁当タイムに入ったようで甘い飲み物も山場を超えて、お茶、ウーロン茶が人気になりました。このように今年もいつものような、あわただしいひとときを過ごしていました。ふと気がつく私たちのテントのなかで一緒にかき氷を食べているセンターの少年がいました。彼には見覚えがありました。2年前にもしばしば私たちのところにきた少年でした。「君のことは覚えているよ。」「いま何年生?」などと少し話しました。かき氷を食べ終わった彼はまたどこかに行きました。それからしばらくして戻ってきて、私に(彼が隣のお店でもらった)駄菓子の袋詰めを差し出して、「世話になったからあげます。」と言うんです。「せっかく貰ったお菓子なんだから、後で食べなよ」と言っても、私の目をじっと見据えて、お菓子の手を差し出すんです。一瞬の間にぐるぐると考え巡らしました。そして、彼の気持ちを思って「ありがとう」と受け取りました。家に帰って、お菓子をかじりながら、これで良かったんだよなあと自分に問いかけました。



8月15日に開催された第71回諏訪湖花火大会



総勢19名で花火見物

飯田 剛 さん 有り難うございました。

フクロウキャンプレポート

甲府21ワイズメンズクラブ 作田 あずさ

8月20日、今年も山梨県立八ヶ岳少年自然の家にて行われたフクロウキャンプのお手伝いに参加しました。発達障害のある児童と、その兄弟を対象にした2泊3日のキャンプ。甲府21クラブは、2日目のお昼のカレー作りと入浴介助を行います。参加メンバーは、荻野会長夫妻・寺田夫妻・野々垣夫妻・松村豪夫妻・飯田メン・小澤公紀メン・露木魁人メン・松村禎夫メン・山県メン・作田の計14名。早速カレー作りに取り掛かります。既にお手伝いの順番待ちの列が出来ています。楽しみに待っている子どもたちと一緒に作業はとても楽しく、一つひとつの作業が、愛おしいとさえ感じてしまうほどでした。野菜を切ったり洗ったり。鉋で薪を割り、火をこし、大鍋で煮込んでルーを入れる。どの作業も子どもたちは丁寧に、一生懸命。そして横にはいつも、優しい笑顔で隣に寄り添い、声を掛けながら暖かく見守っているメンバーの姿がありました。かまどでも、うちわを吹き続ける子どもたちに『頑張れー!』と、みな笑顔で応援。たくさんの笑顔と笑い声に包まれて、70人前のカレーが出来上がりました。メンバーのアイデアによる隠し味と、飯ごう炊きの裏ワザが光り、とても美味しく、あつという間の完食となりました。メンバーの想いがたくさん詰まったカレー作りと入浴介助を終えて、心温かい1日を過ごすことが出来ました。みなさん、ありがとうございました。

